

日・ASEAN健康イニシアチブ

- 我が国の経験・知見を動員して、「健康寿命先進地域実現」に向けたASEANの努力を支援。
- 保健・医療分野において5年間で8000人の人材育成。
- 『日・ASEAN健康フォーラム』を開催し、日・ASEANの対話を推進。

協力項目メニュー

健康的な生活習慣の促進

- ・栄養管理、健康管理に関する共同研究
- ・健康的な食習慣・生活習慣作りの支援
- ・栄養管理制度構築、食品流通網整備の支援

早期発見・予防医療の推進

- ・生活習慣病対策に関する経験・知見の共有
- ・早期発見・診断のための医師・医療従事者の育成
- ・X線画像検査等の検診施設の設立支援

多くの人が医療サービスを受けられる環境整備

- ・公的医療保険制度の構築支援(医療格差の解消)
- ・病院や保健所の設立・管理の支援
- ・医師、看護師等の育成支援
- ・医薬品・医療機器の規制制度の構築支援
- ・ICTを活用した遠隔医療システムの導入支援
- ・感染症対策や母子保健等、その他医療レベルの向上のための支援

相手国のニーズを踏まえ、個別に協議した上で、具体的協力策を探る

今後5年間の支援策

●協力事業を実施

- ・ODAや官民連携を含め、多様な政策資源を活用

●8000人の人材育成

- ・専門家派遣、研修受入等を通じた、官民連携による総合的な支援

日・ASEAN健康フォーラム

日本の知見の共有、各国における取組状況の紹介

日本とASEANの間における協力

ASEANの課題

◆都市化・食生活の欧米化による肥満

◆生活習慣病の急増
(がん、糖尿病、心臓病等)

◆医療レベル格差の拡大(公立⇄私立、都市⇄地方)

日本の知見

- 1946～国民栄養調査の実施
- 1962～管理栄養士の資格制度創設
- 1978～健康増進政策の開始

- 1940～集団検診の開始
- 1984～対がん総合戦略の開始
- 2008～特定健康診査、保健指導開始

- 1948～医師、看護師等の資格制度創設
- 1961～国民皆保険制度構築
- 1985～医療計画制度の導入
(医療サービス提供の制度的整備の開始)

協力の柱

健康的な生活習慣の促進

早期発見・予防医療の推進

多くの人が医療サービスを受けられる環境整備

協力の方策

共同研究・制度構築・人材育成・医療製品普及・施設整備等の支援

協力の例

- 健康・栄養に関する研究交流
- 生活習慣病患者に対して遠隔モニタリングシステムを活用した健康管理モデルを実証
- 現地患者を対象とした肥満対策を研究
- 寄附講座等を通じた栄養士の育成と資格制度の構築支援
- ASEANの大学での食産業に関する寄附講座を通じて人材育成を支援
- 安全な飲料水提供のための水道事業の改善を支援

- 我が国の知見や経験を生かした生活習慣病対策研修を実施
- WEBを活用した新興国向けの生活習慣病予防プログラムを開発
- がん分野等の医療従事者等を招へいし、研修を実施
- 腎臓病等の早期発見システムの確立を支援
- 内視鏡トレーニングセンターの設立支援
- ICTを活用する病理画像診断等遠隔医療を支援
- ASEANにおける透析治療の推進

- UHC(ユニバーサルヘルスカバレッジ)、公的医療保険制度の構築に向けた専門家の派遣、研修の受け入れ
- 中核病院から地方レベルまでを含めた保健サービス体制の強化、病院機材の整備、レファラルシステムの構築支援
- 大学の医学関係学部および付属病院の整備による医療関係人材の育成支援
- 日本とアセアン諸国との大学間の交流を通じて若手研究者や医療従事者を育成
- 看護師や助産師、さらに保険行政官等への指導を通じ、人材育成プログラムの構築を支援
- 各国規制当局と連携して、医薬品等の開発や生産、薬事制度の底上げをめざす人材育成を実施
- 中核病院と地方病院を連結する等遠隔医療システムの導入支援
- GHIT(グローバルヘルス技術振興基金)、国際共同研究等による感染症対策への支援